

中部大学市民公開講座

第5回 睡眠・認知症予防シンポジウム

日時：2018年6月17日 9時40分-13時00分

場所：中部大学三浦記念会館 6階大ホール

プログラム

総合司会 山田 礼子 先生（中部大学）

I 9:30-10:30

座長：北村 拓朗 先生（産業医科大学）

はじめに 「眠りでひらく健康のとびらー睡眠と認知症予防ー」

宮崎 総一郎 先生（中部大学）

話題：体内糖化度と生活習慣病

山中 幹宏 先生（シャープライフサイエンス）

II 10:40-11:40

座長：野田 明子 先生（中部大学）

教育講演 「4週間でぐっすり眠れる睡眠改善法」

岡島 義 先生（東京家政大学）

III 11:50-12:50

座長：太田 龍朗 先生（名古屋第一赤十字病院）

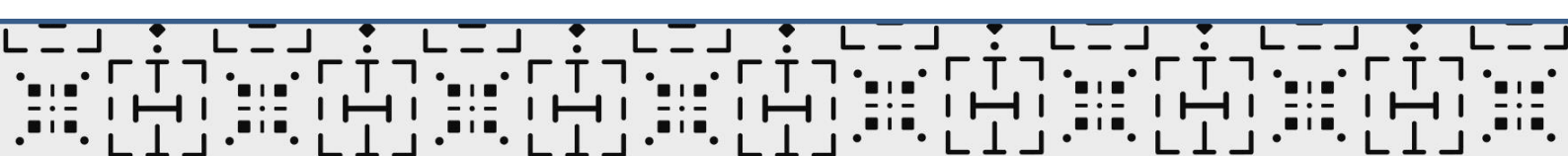
特別講演 「認知症を生きるということ」

柴山 漠人 先生

（あさひが丘ホスピタル、藤田保健衛生大学）

お申し込みはメール（miyazaki@jses.me）または
ファックス（052-261-9641）にてお願いします

後援：中部大学、日本睡眠教育機構



岡島 義 先生

東京家政大学准教授、臨床心理学博士。2003年日本大学卒業、2008年北海道医療大学大学院士課程修了。神経研究所附属睡眠学センター、東京医大睡眠学講座、睡眠総合ケアクリニック代々木主任心理士、早稲田大学を経て、2018年より現職。2007年日本認知・行動療法学会内山記念賞、2011年 Worldsleep2011 Poster Prize、2012年日本睡眠学会睡眠研究奨励賞、2013年不眠研究会大熊賞、2017年早稲田大学リサーチアワード等受賞。

「日本では不眠症をはじめとする睡眠問題を専門に研究している臨床心理学者というのは、じつはほとんどいません。不眠というのは何らか他の病気に付随する副次的現象と見なされており、主たる研究対象ではありませんでした。でもよく考えてみると、睡眠というのはじつに様々な心理的・身体的な病気や不調に、横断的に関係しているものです。もしかすると睡眠が主で、他の様々な症状が従なのではないか、睡眠を積極的に改善していくことで、薬を使わずに心も身体もぐっと健康になるのではないか、そこを究明するのが自分の臨床心理学者としての使命だと考えるようになりました。」著書は、「認知行動療法で改善する不眠症」、「4週間でぐっすり眠れる本：つけるだけで不眠が治る睡眠ダイアリー」、他。

柴山 漠人 先生

あさひが丘ホスピタル名誉院長、藤田保健衛生大学客員教授、日本老年精神医学会名誉会員、日本認知症学会評議員、日本認知症ケア学会特別会員。

柴山漠人先生は阪大理学部物理学科と名大医学部で10年間学ばれ、精神科臨床、精神病院管理で群を抜く仕事をされながら老年精神医学・認知症研究でも世界的業績を上げられました。

痴呆という呆れた差別用語を排して認知症という呼称に貢献されたのは柴山先生です。千種区で認知症の在宅ケアモデルを推進され認知症診断センターとかかりつけ医の連携構築に寄与されています。県立城山病院長ご退任後も物忘れ外来を続けられ、藤田保健衛生大の客員教授として後輩の育成もされています。

著書に『専門医が伝えたい認知症を生きるということ 「痴呆」から「認知症」へ』（幻冬舎）「患者さんから選ばれる医師を目指して」（近代文芸社）など。